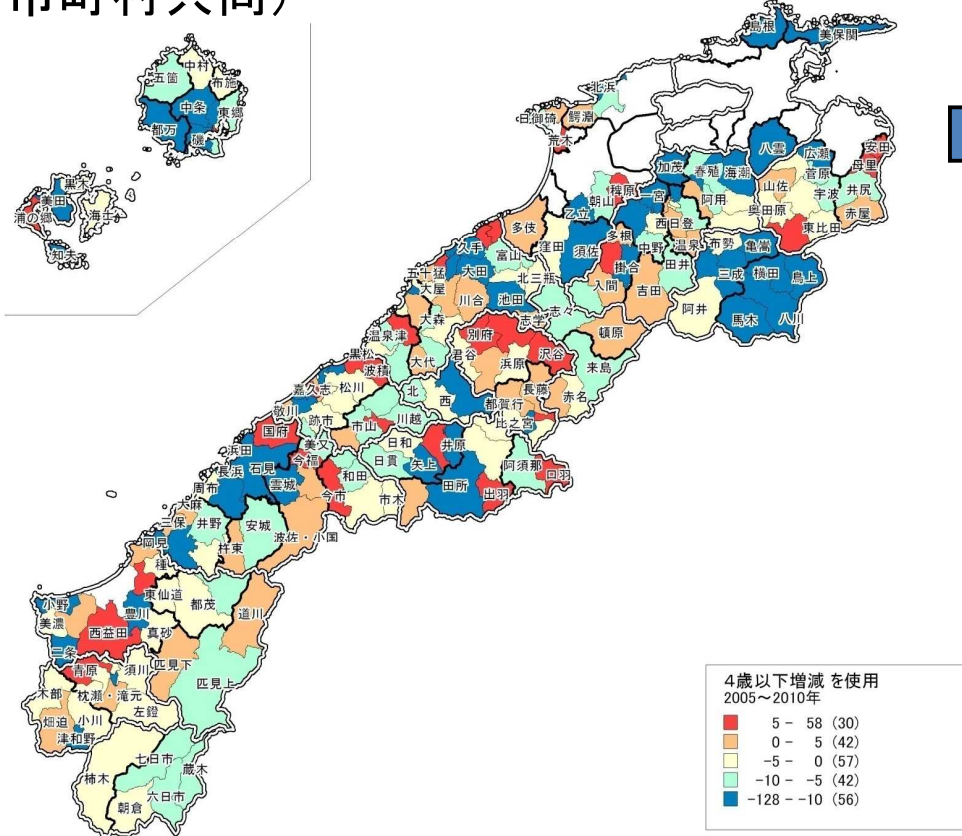


全県227地区の 人口カルテづくり (県・市町村共同)

●子ども数増減率
<4歳以下人口、2005～2010年)



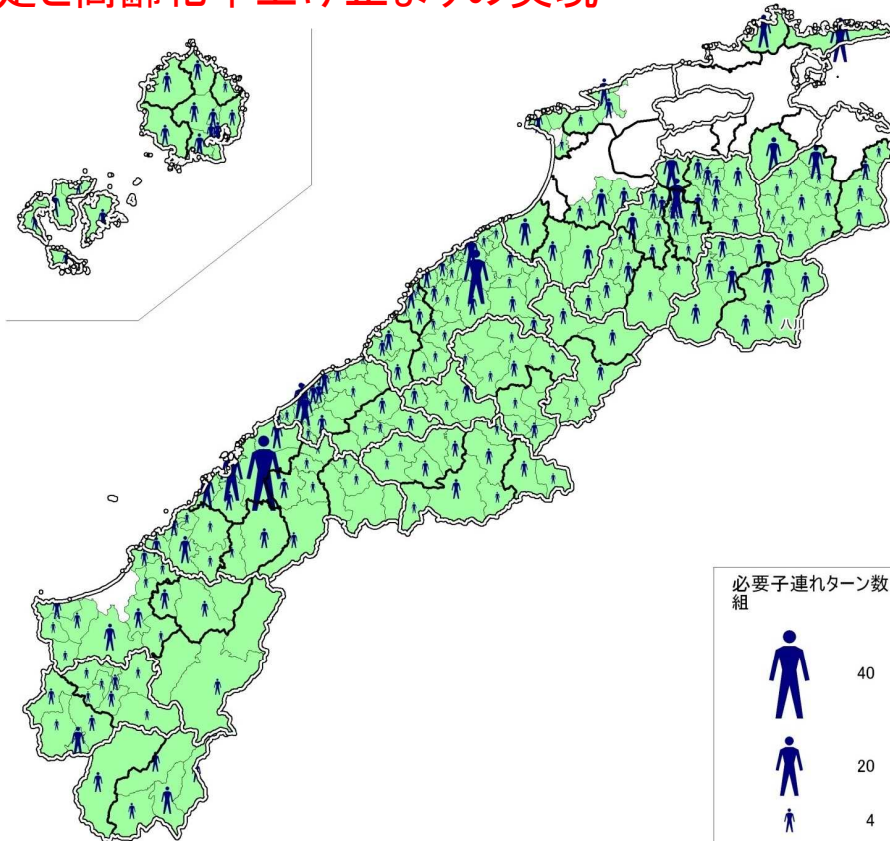
どんな条件、取り組みが
次世代の定住を促進？

カルテによる
地域診断

1

●必要子連れ&若者ターン組数(毎年)

* 子供数安定と高齢化率上げ止まりの実現



全地区で人口予測を実施

必要な定住増
を明示

2

人口カルテによる2005年、2010年、2020年比較

中山間 226 地区 *激増1 地区を除く	平均世帯 数	平均人 口	人口 増減 率	平均 高齢率	平均小学 生数	子連れ& 若者ター ン平均必 要増加数 (合計)
2005	518戸	1471人		36.5%	77人	年間2.4 組・13人 増 (年間 542組増 加)
2010	504戸	1370人	-6.9%	38.4%	66人	
2020 (予測)		1150人	- 16.0 %	43.0%	51人	

このまま進むと2020年には、大幅な人口減少・高齢化・少子化に見舞われる。

* 2005～2010年の人口動態が継続したと仮定して計算した速報値
3

部局を横断した総合的な定住条件の検討

各分野の政策指標(まずは1指標を試行)

次世代の
定住促進
条件

①交通:交通空白地域割合 × ●

②買い物:コンビニ店舗数 × ●

③福祉:介護施設 × ●

④農業:直払い協定面積割合 × ●

⑤医療:医療施設への時間・距離 × ●

⑥NPO:NPO数 × ●

⑦公民館:地域力醸成PT数 × ●

⑧教育:小学校、高校 × ●

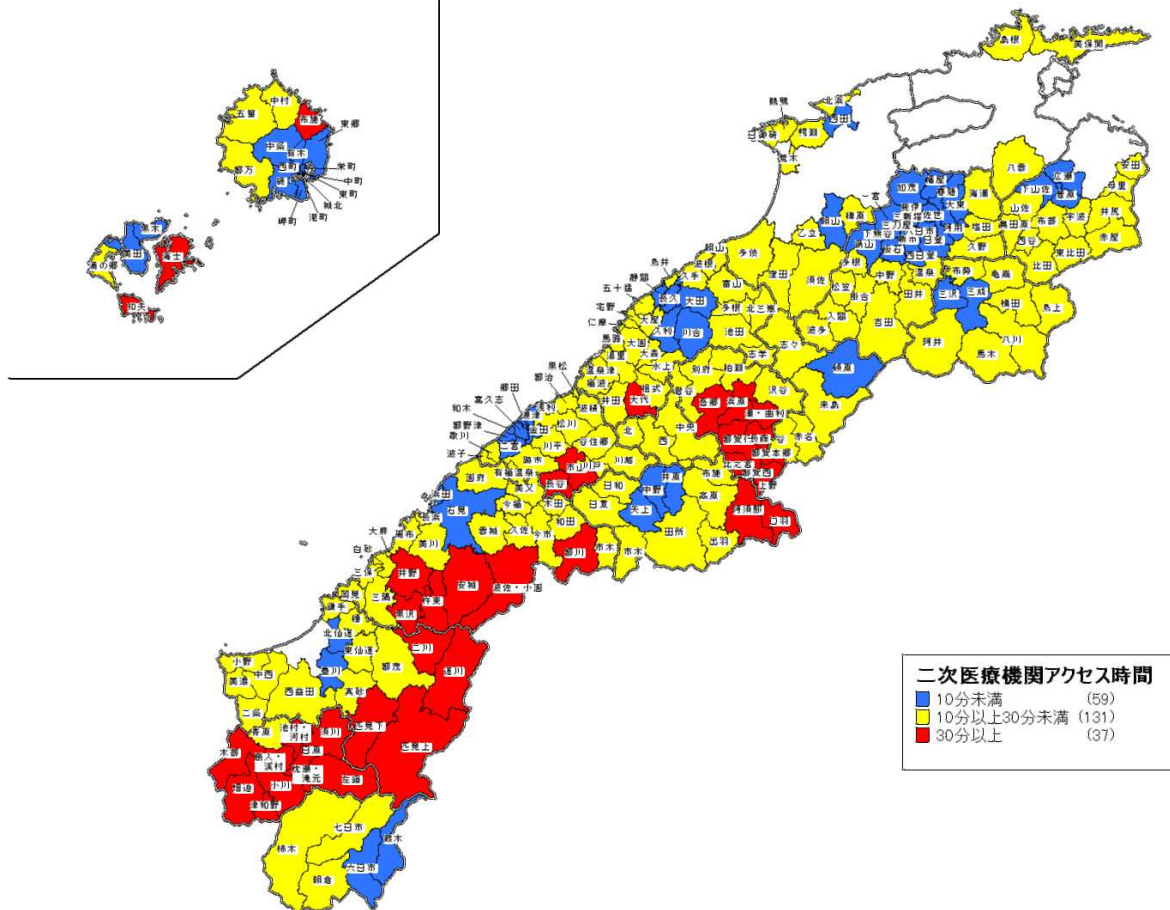
⑨ブランド:特産市の数 × ●

●実際の人口状況と比較検証

- 高齢化率
- 人口増減率
- 4歳以下人口比率
- 1,000人当たりの定住必要数
- 20～30代女性比率

- ✓ 人口数
- ✓ 世帯数
- ✓ 生産年齢人口
- ✓ 若年層率
- ✓ 高齢者単身世帯数 4

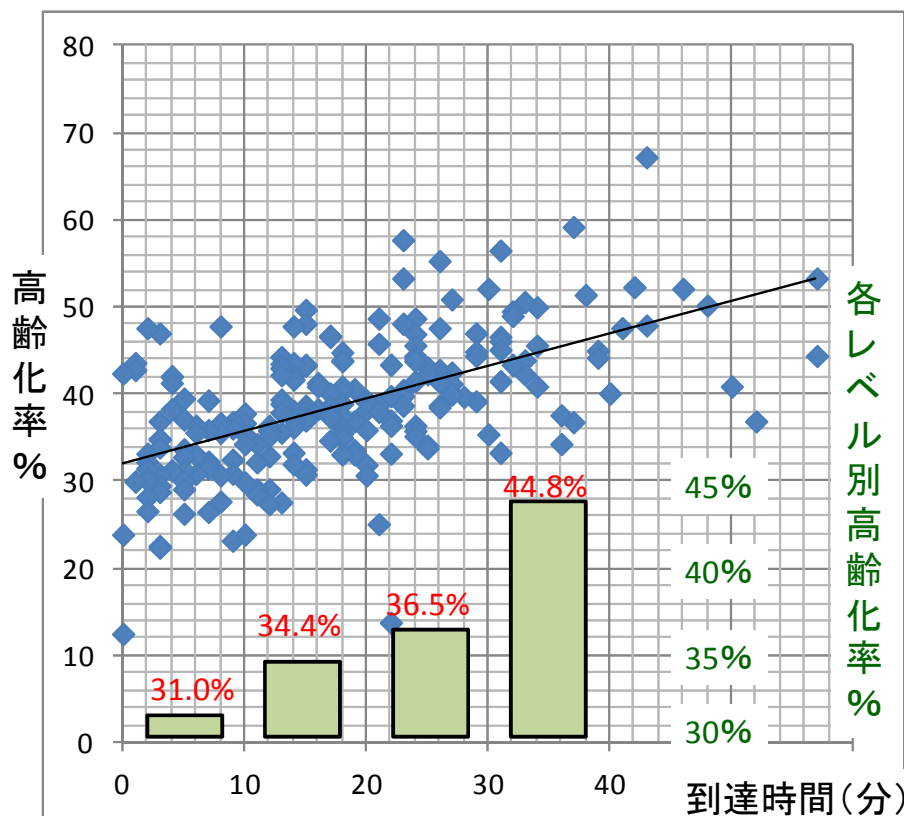
二次医療機関への到達時間マップ



5

●二次医療への時間×高齢化率(相関係数 $r=0.571$)

二次医療機関への時間が長くなると、高齢化率が高くなる傾向。



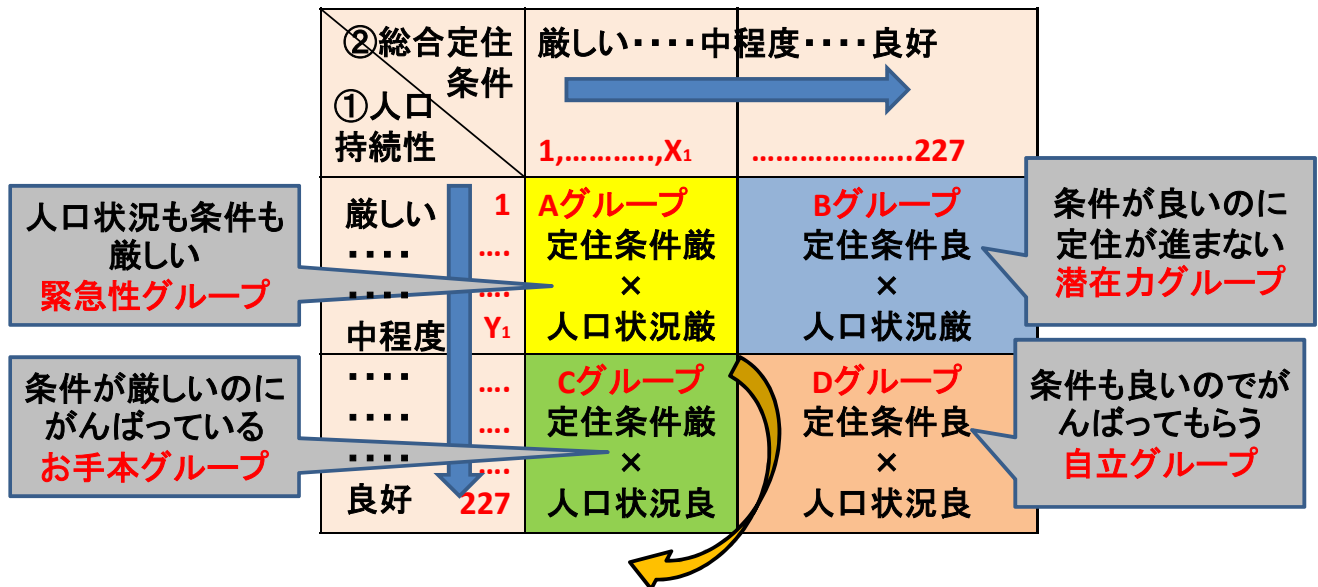
達成レベル別集約

到達時間	人口%
～9分	123,338人 39%
～19分	106,425人 34%
～29分	61,252人 20%
30分以上	19,786人 6%
陸路不可	3,031人 1%
合計	313,832人 100%

※二次医療機関は、救急告知病院。分析エリア数＝221。陸路計測不能の6地区を除外して計算。

6

①人口持続性指数＋②総合定住条件を組合せ、4類型化



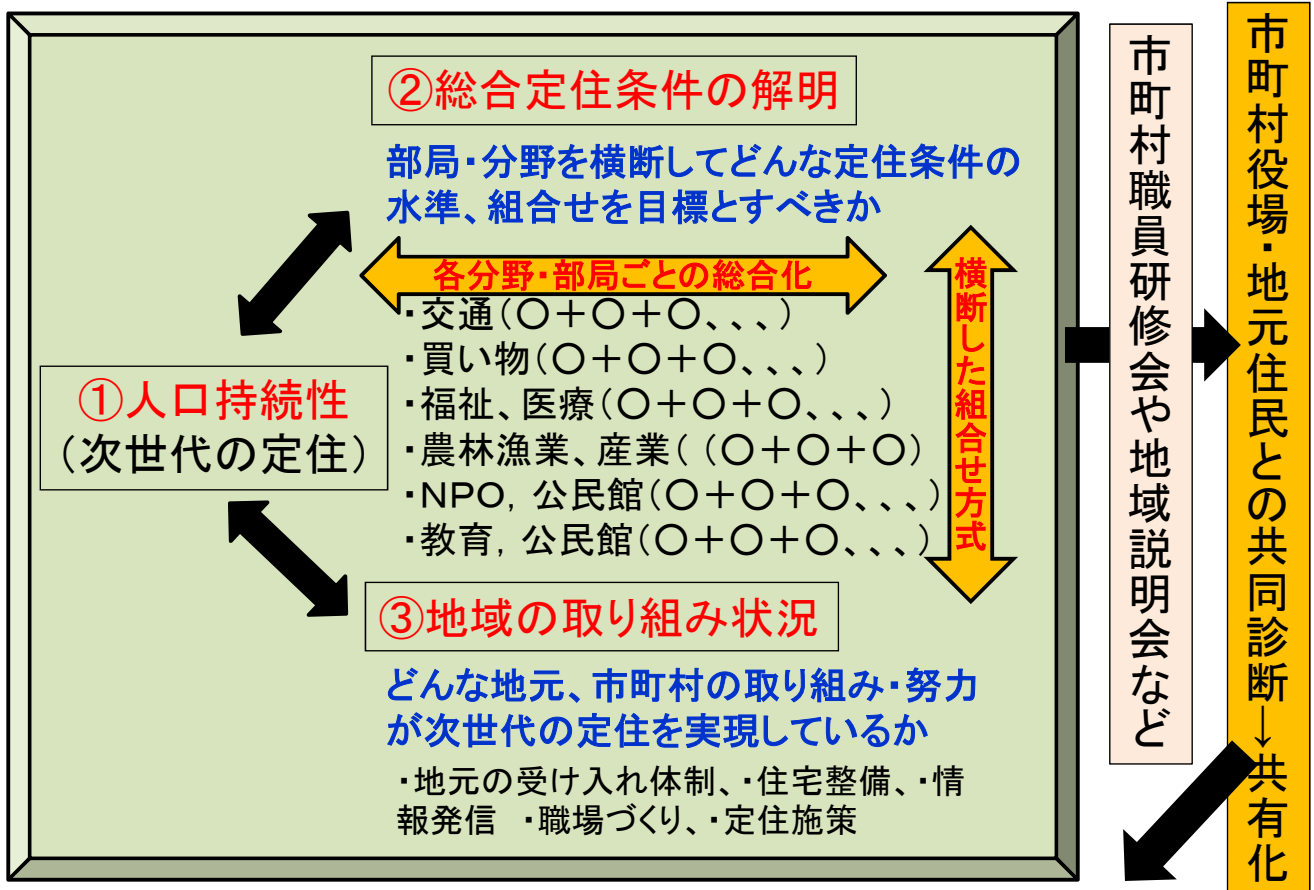
◎同じ条件なのに、人口状況に差があるのは、なぜ！？

➡ 地元、市町村のがんばり(地域力)

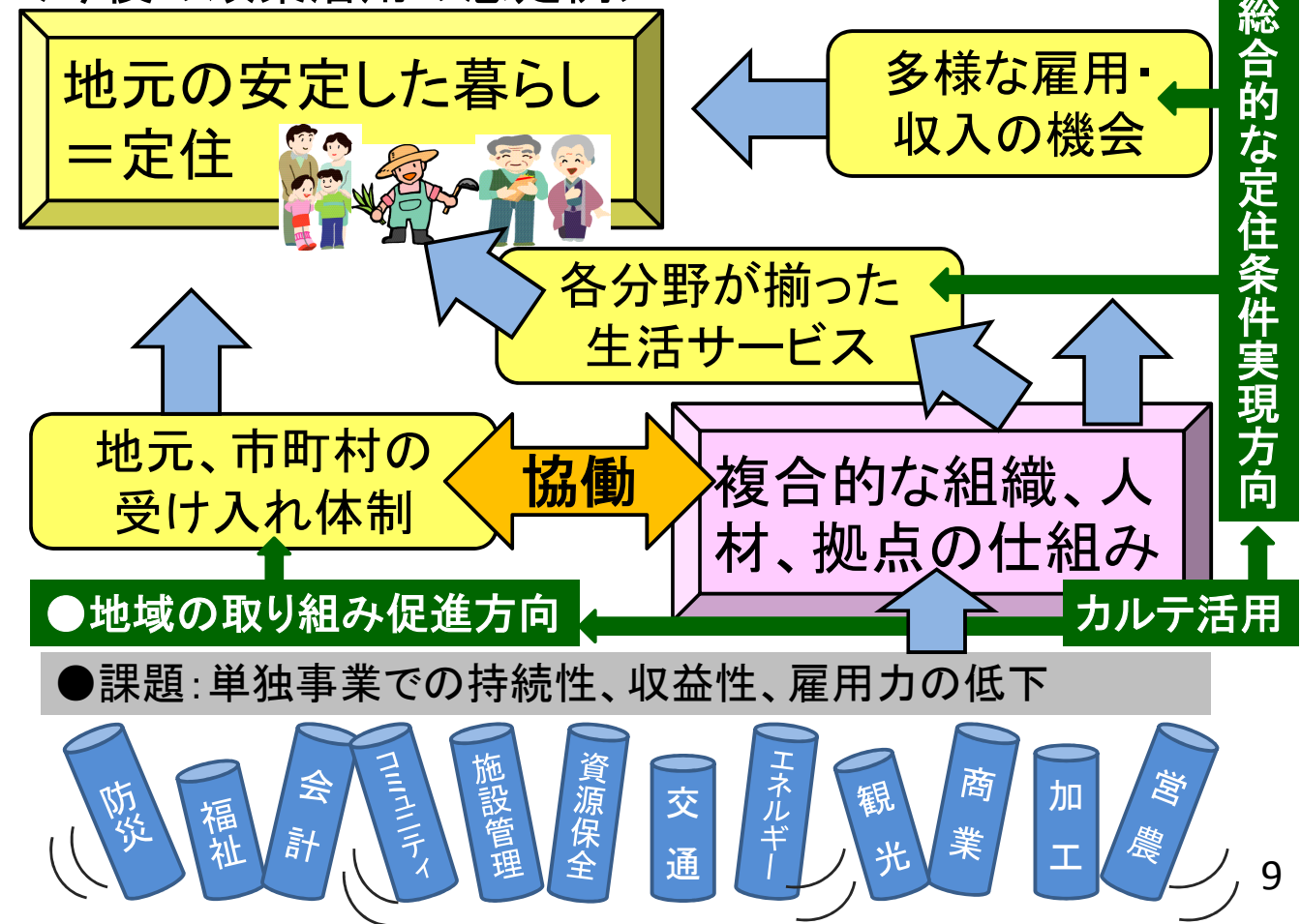
例えば、①地元の受け入れ体制、②定住用の住宅整備、③地域からの情報発信④地元での職場づくり、⑤市町村の定住施策など

➡ 第③要素: 地域での取り組み状況も共有したカルテ進化・活用へ

<カルテの進化・活用>



<今後の政策活用の想定例>



<参考資料>

人口カルテによる分析・人口事例
(A地区)

毎年何人のU&Iターンが必要？

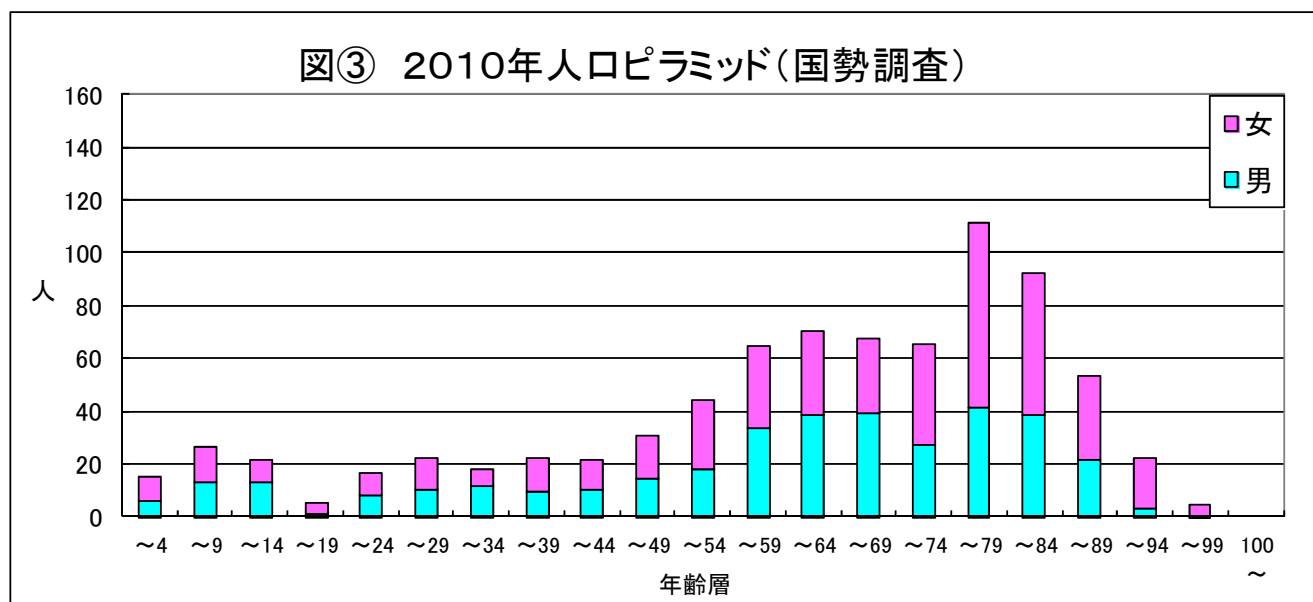
毎年各1～2組

30代前半子連れ夫婦

20代前半男女 の計10人

流入増で変わる地域の未来

1. 現在の年齢構成

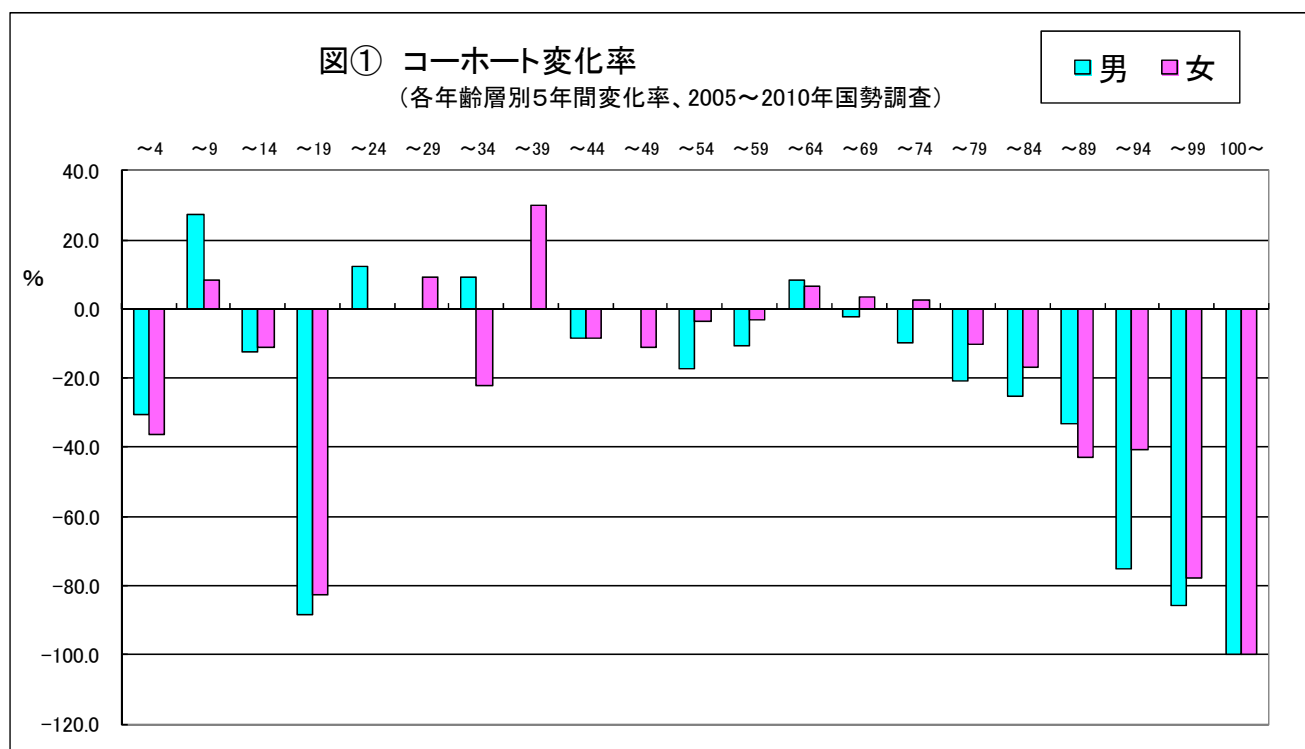


人口808人、高齢化率52%
の基礎的な生活圏(小学校区)

11

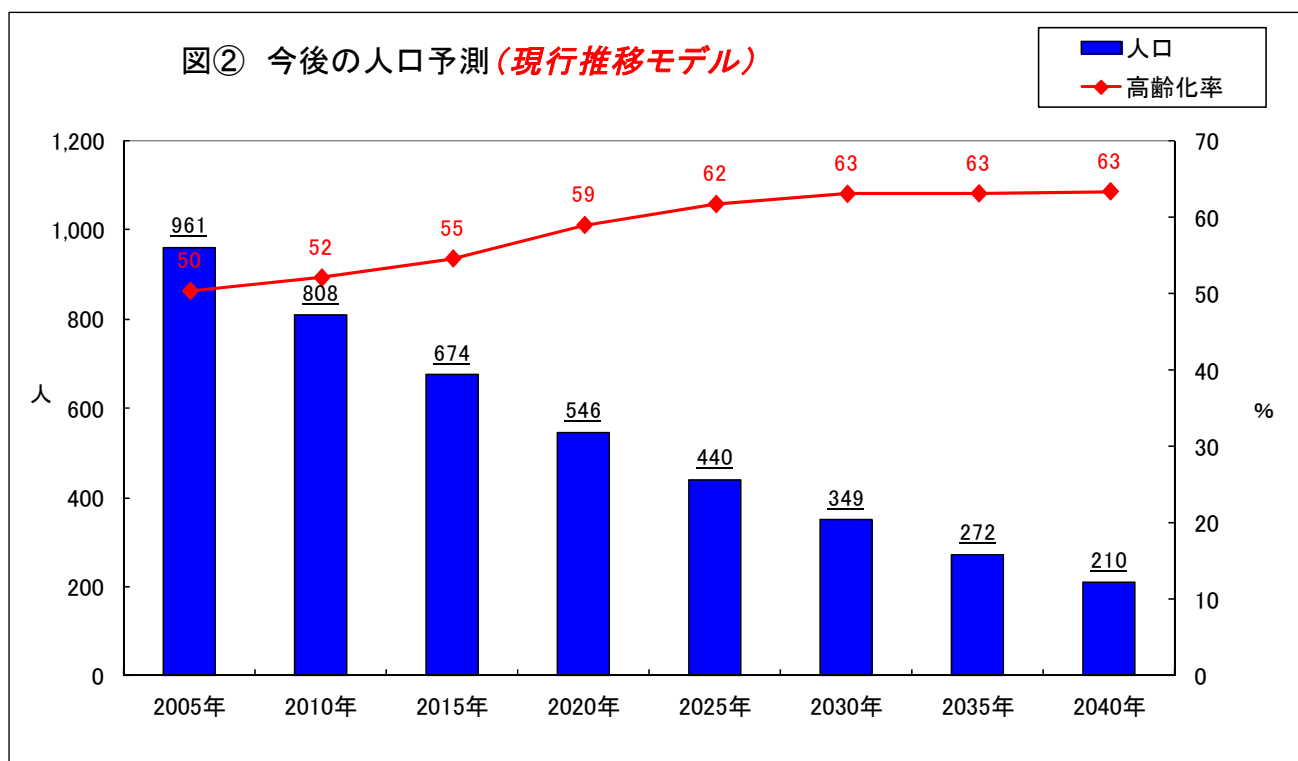
2. 年齢階層別の人口増減(流出入)率

* 5年前の5歳若い集団との比較



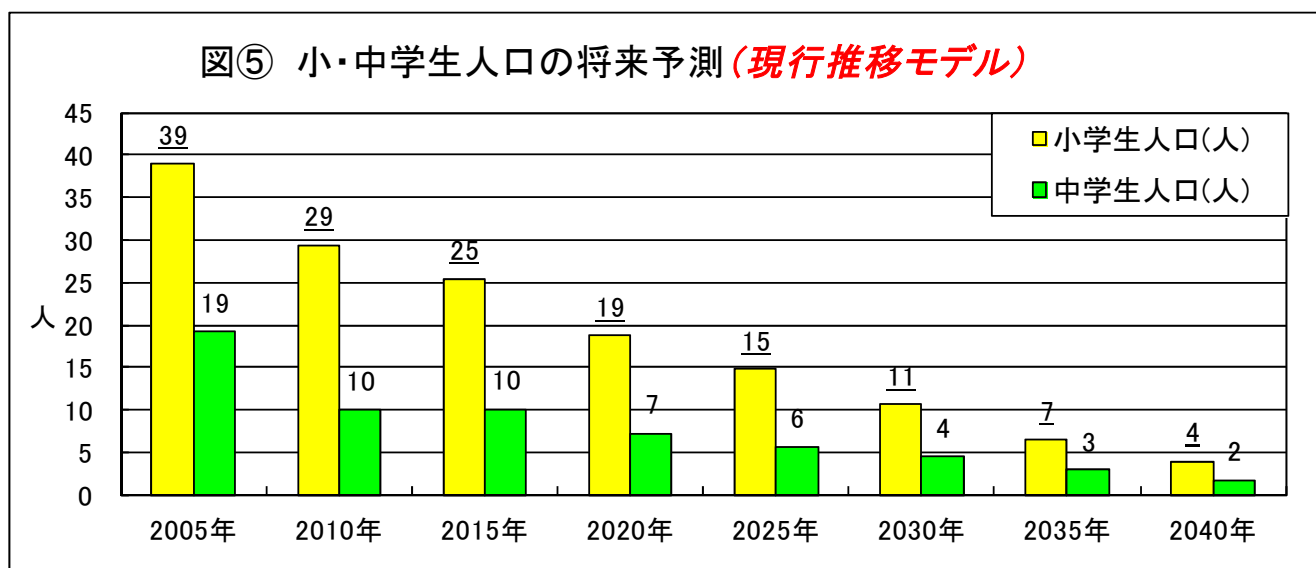
12

3. 現状推移シナリオ(2000～2005年動態が継続)



13

4. 小・中学生の人口予測(現状推移シナリオ)

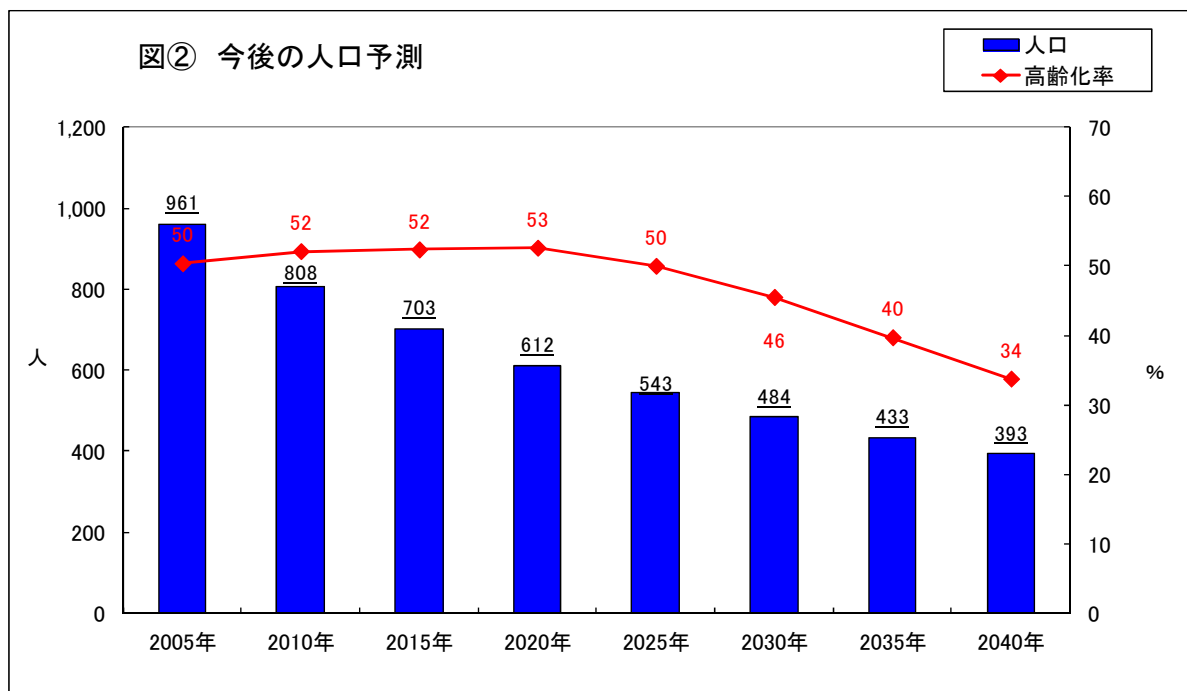


14

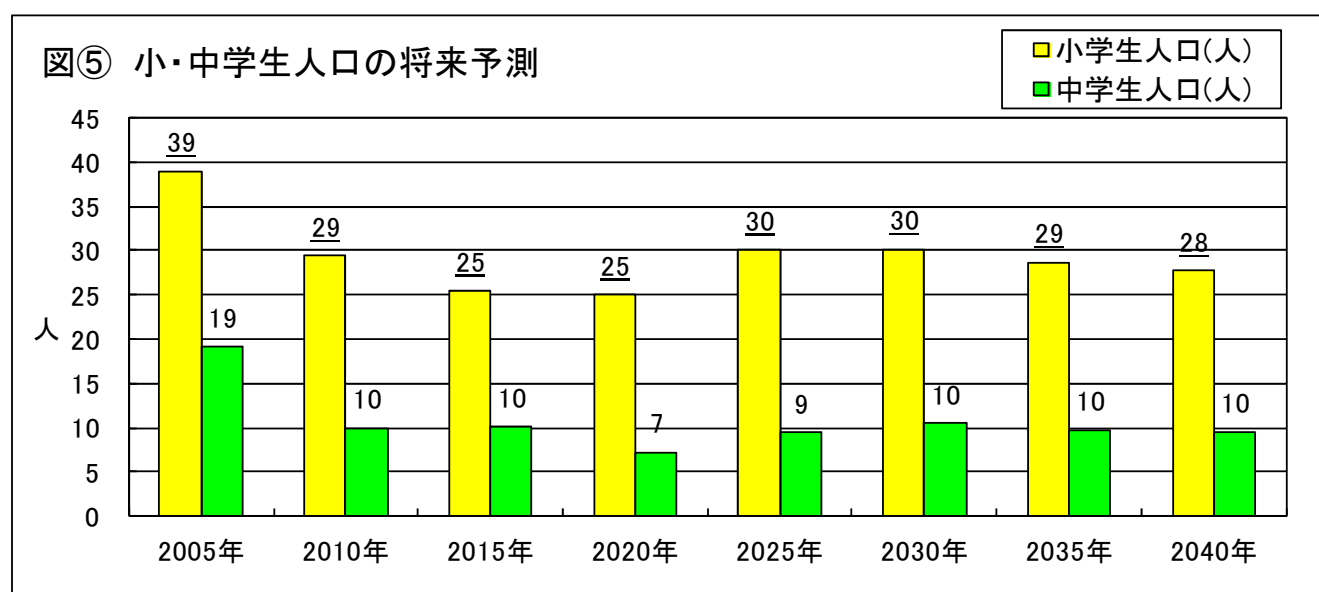
5. U&Iターン増シナリオ①

●想定条件Ⅱ 30代前半夫婦（4歳以下の子供）と20代前半男女が毎年、各1組、現行よりも流入増加

15



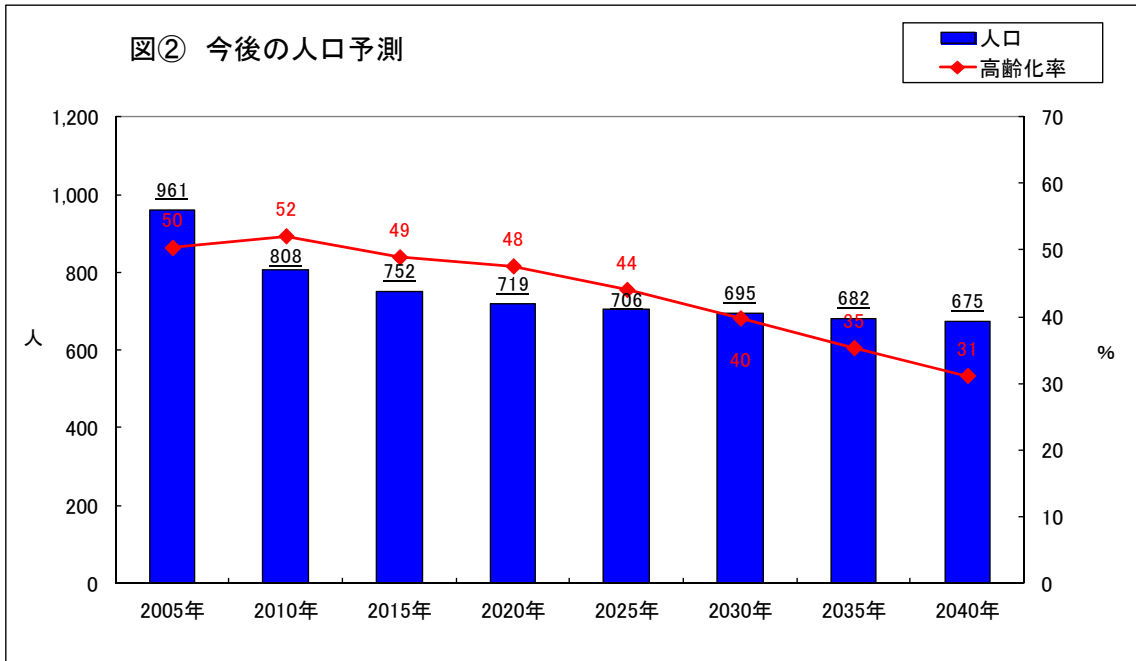
6. 2025年の予測年齢構成 (U&Iターン増シナリオ①)



7. U&Iターン増シナリオ②

●想定条件Ⅱ 30代前半夫婦（4歳以下の子供）と20代前半男女に加えて60代前半夫婦が毎年、各2組、
 現行よりも流入増加

17



8. 2025年の予測年齢構成 (U&Iターン増シナリオ②)

